私たち災害リハビリテーションチームは 高齢者や体に不自由のある方の 健康的な生活と活動をサポートします



# JAPAN DISASTER REHABILITATION Assistance Team

大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会



# 災害のフェーズに合わせた リハビリテーション支援

(災害に関連した身体機能、生活能力の低下予防)

応急 修復期

......

復旧期

......

復興期

### リハビリテーション トリアージ

- 避難所の住環境評価と整備
- 動きやすい居住環境の アドバイスや応急的環境整備
- 避難所支援物資の適切な選定と設置(段ボールベッドなど)

# 生活不活発病予防

避難所や施設での リハビリテーション 支援活動

#### 健康支援

地域に根付いた リハビリテーションへの 移行支援

※参入職種 リハビリテーション科医師、理学療法士、 作業療法士、言語聴覚士、看護師、ケアマネジャー、 義胺装具士、その他医療福祉関連職

# JRAT 基本方針

本会は平時から参加団体相互が連携し、各地域において地域住民と共に災害に立ち向かえるように災害リハビリテーション支援チームを発足させ、大規模災害発生時には災害弱者、新たな障害者、あるいは被災高齢者対なるで生活不活発病への予防に対する適切な対応を可能とすることで国民が災害を乗り越えように、安心、安全且つ、良質なリハビリテーシに、安心、安全目のとする。

#### 活動指針

- 災害リハビリテーション支援チームの 育成・組織化
- 2 都道府県を単位とする 全国規模のネットワークの構築
- ③ 災害リハビリテーションに関する 教育・啓発のための研修および広報
- ₫ 災害支援必要機材の準備
- ⑤ 他の災害救助チームとの連携
- 災害時、組織的且つ直接的な 災害リハビリテーション支援
- 7 その他、目的を達成することに関連した活動

# 代表ご挨拶

「大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会(JRAT: Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team)」は「東日本大震災リハビリテーション支援関連 10 団体」(2011年4月13日設立)が新たな大規模災害に備えるために、他の災害支援団体にも呼びかけを行い、日本義肢装具士協会、日本義肢装具学会等の新規参加および厚生労働省医政局災害対策室 DMAT 事務局(国立病院機構災害医療センター)からのアドバイザー参加などを得て、2013年7月26日に名称変更を行い新たな組織として誕生し、全国規模の体制づくりを図ってまいりました。

具体的には、各都道府県単位での「地域JRAT」の設立推進およびブロック体制の 構築などが挙げられます。

一方では日本医師会JMATとの連携体制の構築および厚生労働省老健局老人保健課等のアドバイスの下での国・行政との協業体制の構築にも努力してまいりました。その結果、JMATをはじめとした他の災害支援団体にも災害リハビリテーションの重要性が周知され、公的(国:内閣府・厚労省・国土交通省など)にもJRATの存在・位置づけが認知されてきたものと考えています。

その重要性を明確にした活動が2015年9月9日から10日にかけて栃木・茨城を襲った関東・東北豪雨災害、そして2016年4月14・16日に起こった熊本地震災害でした。 茨城では「茨城JRAT」が活動し、そして熊本地震では全国規模で延べ約2000人が支援活動を行いました。

すでに、災害は他県へ支援するだけではなく、いつ来るかわからない足元の出来事であるとの認識が重要であり、平時からの確固たる対策が求められるところです。

全国規模で「地域JRAT」が組織化され、平時から災害リハビリテーションの重要性に 関する教育・啓発そして人材育成および他の災害支援団体との強固な連携構築が推進 されていくことを切に期待しております。

今後、JRATとしては、①JRATの法人化・②全国レベルでのDMATやJMAT等災害支援団体との協業体制の構築(それぞれの団体の位置づけ・役割の明確化と情報共有化等を目指す)・③47都道府県での「地域JRAT設立」・④ブロック単位における情報共有、組織化・⑤平時からの教育・啓発・人材育成等に努力してまいる所存です。



皆さんの大いなるご協力・ご支援そしてご指導の程宜しくお願い 申し上げます。

大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会(JRAT) 代表 栗原正紀



# 主なJRATの活動



# 生活不活発とそれに伴う 災害関連疾患の予防と対策

避難所では災害による混乱や不慣れな環境により、生活が不活発になります。そのため、身体や認知機能の低下、呼吸・循環器疾患、深部静脈血栓症(DVT)などの生活不活発病が生じやすくなります。これらを予防するために、発災早期より災害リハビリテーションチームとして関わり、避難された方々の健康的な生活と活動を支えます。



















1.避難所での下肢筋力の評価と訓練 2.生活不活発病予防のための集団体操 3.歩行の介助と練習

5.階段昇降の介助と練習 6.レクリエーション(風船バレー)

7. 応急的に作成した短下肢装具 8. ベッドからの立ち上がりの練習と杖の調整 9. 避難者への再評価



避難所を訪問し、状況を伺いリハビリテーショントリアージを行うところ

10. レクリエーション(屋外での体操)11. 繰り返し行う評価



12.関節可動域訓練 13.長期化した避難生活への支援





14.松葉杖の調整と練習 15.詳細な聞き取りと評価









# 2

# 生活環境の改善や工夫

避難所は高齢者や体に不自由のある方にとって生活や移動が困難な場所となります。 単に動きづらいだけでなく、転倒などのリスクも生じます。現地の避難所管理者や保 健師等と協力して、避難所の評価や整備、福祉用具の手配や活用によって生活環境 を改善するよう努めていきます。





















1.新しく作られた歩行スペースの評価 2.段ボールベッドの環境調整

3.フロアマットでの歩行の確認

- 4. 立ち座りのための福祉用具の配備
- 5.視覚障がい者用誘導テープ
- 6. 避難所出口の段差の解消作業
- 7.縁側の高さの評価
- 8.避難所の階段の評価
- 9.寝台の高さ調整
- 10.出入口の動作の確認









1.医療支援チームミーティング 2.JRAT現地対策本部



3. JRAT内での活動ミーティング 4. 他団体との情報共有のための会議 5. 保健師と協働した個別評価



6.多職種で行う避難所の評価 7.地域のスタッフへの情報の共有と引き継ぎ



# 地域や災害支援団体との連携した活動

災害時には様々な団体による支援活動が行われます。私たちは、被災地域の方々、 避難所責任者、保健所・保健師、災害(医療)支援チーム、また現地対策本部や医 師会、行政等と信頼関係を構築して活動します。被災地域の特性やニーズに沿った 支援を心がけ、積極的にコミュニケーションを図っていきます。



# 大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会

日本リハビリテーション協会全国地域リハビリテーション協会全国地域リハビリテーション協院・施設協会
日本言語聴覚士協会
日本理学療法士協会
日本理学療法士協会

# リハビリテーション専門職の 災害救助法における位置づけについて

厚生労働省社会・援護局より、平成25年4月10日に各都道府県に発信された課長通知社援総発0410第1号、「大規模災害における応急救助の指針」において、「医療需要等に対応した関係医療スタッフの配置」について下記の通り示され、リハビリ専門職も災害派遣法の適応職種の範疇に入ることが示されました。

「災害派遣法医療需要等に対応した関係医療スタッフの配置救護班として派遣する 医師等のスタッフについては、当初は外科、内科系を中心に編成することはやむを 得ないとしても、時間の経過に対応し、適宜、口腔ケア、メンタルケア、いわゆる 生活不活発病予防等の健康管理に必要な保健医療専門職等のスタッフを加える等、 被災地の医療や保健の需要を踏まえた対応を実施すること。」(平成25年社援総発 0410第1号より抜粋)

リハビリテーション専門職の災害支援への組織化は、来る大規模災害に備え、急務の課題と言えます。

大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会(JRAT)事務局

公益社団法人 日本理学療法士協会内 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-8-5 Email:rehashien10@japanpt.or.jp

**2**03-6804-1422



日本リハビリテーション工学協会

本義肢装具士協会

本義肢装具学会

http://www.jrat.jp/